
ADVENTURE ONLINE

柿木猛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ADVENTURE ONLINE

【Nコード】

N8201Y

【作者名】

柿木猛

【あらすじ】

VRオンラインゲームにはまっていた中井聡は、検索サイトの広告欄にβ版VRオンラインゲーム——ADVENTURE ONLINE——プレイヤー抽選の広告を発見。即座に応募した。結果、当選してゲームを始めることとなる。しかし、このゲームには重大なバグが存在していた……。 （注、以前投稿した物も読みやすくなるよう後で編集することがあります。また、途中で文章の書き方が変わる可能性があります。ご了承ください。）

プロローグ（前書き）

小説を書くことが初めてのため、文章に不自然な箇所が生じる可能性があります。

ブローグ

二十世紀から様々な種類のゲームが広がっている。TVゲーム、PCゲーム、アーケードゲーム、カードゲームetc。様々な種類のゲームが現れては消え、消えては現れていた。

その中でも、多くのユーザーを獲得したのは、PCゲームのオンラインゲーム。正確には、VRオンライン。その理由としては、五感全てをゲーム内に反映するVR空間ができたため。

そんなユーザーが広がるゲームに俺——なかいさとし中井聡——は、どっぷりとハマっていた。

そして、最近は特に運がいい。オンラインゲームで希少なアイテムを拾ったり、テストの山が当たったり、女子からメールをもらったり。最高についている。

——まあ貰ったメールは、不幸のメールだったりするのだが。そんなのは些細な問題だ……。

こう言い切る最大の原因が、検索サイトの広告に掲示されていたβ版のオンラインゲームの抽選が当たり、プレイすることができるからだ。

帰宅してから必ず行うメールチェックをしていたら、

——CONGRATULATION!!——

という、どう見ても迷惑メールにしか見えない件名で、抽選の結果が来ていた。

読まずに破棄しなくて本当によかったと思う。

本文には、一つのURLが添付されていた。それが、これから新たに遊ぶオンラインゲーム

——ADVENTURE ONLINE——。

そして、俺は胸を高鳴らして添付されているURLにリンクしてVR空間に行くコマンドを唱える。

「ダイブ、VR空間!!」

プロローグ（後書き）

読んでいただきありがとうございます。

少しずつ書き進めるつもりですので、これからも読んでいただくと幸いです。

1話 チュートリアル（前書き）

下書きが早めにできました。

1話 チュートリアル

とりあえず、VR空間に來た俺は、薄暗い空間の中に漂っている。
VRオンラインゲームでは必ずあるチュートリアル。数秒経ち、機械的な女性の声で説明が開始される。

このゲームは、ステータス、クラス（職業）、装備、スキル、カードにより構成される。

まずゲームデータ作成時、プレイヤーは基本となる全てのステータスに100SPを振り分ける。それぞれ、1SPにつき、

ステータスポイント

HP：10UP

MP：5UP

STR：3UP

DEF：3UP

INT：2UP

LUK：1UP

DEX：1UP

金：10P

そして、クラスLvが上がると50SPもらえるため、それを振り分ける。

このゲームにはクラスの種類は様々で、戦闘系・生産系に分かれる。それぞれのクラスにはボーナスがあり、ステータスボーナス、スキルボーナス、特殊能力が分らない。

クラス変更はゲームを開始した後ではできないため注意しなければならない。

初期装備はひびや壊れることはないが、それ以外の装備には使用回数や消耗具合によって壊れる。そのため、スキルで武器手入れを行うか、NPCに簡易武器手入れセットを渡し、金を払わなければならない。

スキルとは、プレイヤーの特徴を表す部分で、様々な分野にわたり、武器技能、魔法技能、特殊技能、生産技能、専門技能e t c。それから、1000を超えるスキルから6種を自由に選ぶ。

スキルの変更はゲームが始まってからも可能だが、スキルLvは変更を行うと1に戻る。

説明を聞き終わった俺はまずクラスを選択。
表示されているクラスをスクロールしていく。
表示されているものは、

戦士・魔術士・召喚術士・盗賊e t c。

また、和風な

侍・忍者・巫女e t c。

生産系の

鍛冶屋・採掘師・料理人e t c。

などなど、様々なクラスが存在する。

その中でも、俺は戦闘系の中で、もっとも特異なものを選択した。

うみんちゅ
海人

ナニコレ、明らかにゲームデザイナーの趣味にしか思えない。
こんな面白いクラスは選択しないともつたいない。

まあ、地雷でも、戦闘系の中に入っていたから戦闘でも戦えるはず。

そして、100SPをそれぞれ

HP：23SP

MP：4SP

STR：25SP

DEF：15SP

INT：5SP

LUK：8SP

DEX：20SP

金：0SP

に振り分けた。

また、スキルを

武器技能 槍

特殊技能 疾走

特殊技能 探索

特殊技能 情報

特殊技能 泳ぎ

特殊技能 狩猟

を選択。

安易な理由だが、海人なら泳いで魚を狩猟。

後、海に沈む沈没船を探索。一度はやってみたいことだな。

これにより、以下が俺のステータスになる。

プレイヤー名：N A K A

クラス：海人 L V 1

H P : 2 3 0

M P : 2 0

S T R : 7 5

D E F : 4 5

I N T : 1 0

L U K : 8

D E X : 2 0

金 : 0 P

スキル

槍 L V 1

疾走 L V 1

探索 L V 1

情報 L V 1

泳ぎ L V 1

狩猟 L V 1

「データ登録完了。これより、ゲームを開始します。では、A D V
E N T U R E O N L I N Eをお楽しみください。」

1話 チュートリアル（後書き）

2話の下書きはまだ手をつけていないので、時間がかかるかもしれません。

2話 帰還不能（前書き）

とりあえず書けましたので、投稿します。

2話 帰還不能

チュートリアルが終わり、転送された場所は交易の街”ホルン”。ここからは、山や海、草原に廃墟など様々な場所へと繋がるため、発展している。武器や商店、様々な店がある。

店のあるところに、プレイヤーたちは集まりやすい。

プレイヤーたちの拠点エリアにしやすい場所の一つだ。

どうやら、転送されたは俺以外にもいるらしく、沢山のプレイヤーが周囲に存在する。

そして、この場に留まっているプレイヤーは戦い方やギルドの作り方など、先ほどの空間で説明された事以外の説明について聞くのだろう。

しかし、俺は”海人”という特殊なクラスを選択した時点で、ギルドは入ることも作る事も無い。

また、戦い方も遊んでいれば分かるはず――。

そう考え、俺はスキル”疾走”を使い、全力で海方向へ向かった。

街を出る途中に

「誰か”海人”クラス選んだ奴なんているのか？どう考えてもほかの選ぶよな。」

という、馬鹿にされるような発言を聞いた事は気にしない。

道中で、犬型モンスターと接触。戦闘に入ったが、“疾走”のおかげで、十分に速度はある。俺はランス技“突進”を使う。

初期装備の短槍から白いエフェクトが発生し、速度が上がる。

モンスターと交錯したのは一瞬。一撃で上部に表示されているHPバーは緑から赤、そして黒く染まり、犬型モンスターは爆散した。

また、“情報”は倒したモンスターから情報を手に入れることができるらしく、一度倒した敵には苦勞しなくてすみそうだ。

犬型モンスターを瞬殺して数分。緩やかに速度が減速する。スキル使用時間の限界が来たようだ。

スキルLv1で約10分。わずかな時間しか走っていないが、海の街“ソル”に着いた。

“海人”クラスの俺は、この先、この街が拠点となるため、宿屋を訪れる。

「いらつしゃい。宿泊料は1日1P。」

「なら、1カ月宿泊で。」

俺は、恰幅のいいNPCに30P支払う。

「ハイよ。部屋は102号室ね。」

NPCから鍵を貰うとそのままアイテム欄に入れる。

次に、街の道具屋へ。

何か良い武器や道具の相場を見るのが目的。

俺の目を引いた武器は、槍系の武器：トライデントが1000Pで

販売されている。

これを買う事を目標にして、俺は戦うことに決めた。

戦う場所は海。”海人”を選び、スキル”泳ぎ”まで取ったのなら、海でバトルだろ普通。

海に潜ると、陸とは別世界で、水に太陽光が乱反射して輝く。

水の透明度も非常に高く、珊瑚や魚によって、色鮮やかな世界。

システムによって作られたとは思えない世界がそこにはあった。近くにいたクラゲをとりあえず攻撃してみる。

僅かにHPバーは黒くなり、残ったHPバーが緑から赤に変化。戦闘が始まる。

クラゲはゆっくりと俺に対して足を伸ばす。その足は異様に長く、スパークを放っている。

俺は危険と判断して、短槍で足を払うが、触れた瞬間、体に電撃が走る。

そして、俺のHPバーがあっという間に黒く染まり……。

俺は宿屋のベッドから起き上がる。

たった一撃でHPを持っていかれた。どれだけクラゲ強いのか？

俺は海にもぐるのを中止して、情報を集めに”酒場”に向かう。酒場では屈強な漁師たち（NPC）が酒を飲んでいた。話しかけると、

「あ？クラゲに殺された。お前レベルは？——Lv1？無理、無理。基本的に海の生物はLv10は超えてるぞ。まずは、レベル上げからだな。」

軽く漁師たちに言われるが、やはり釈然としない。ステータスポーナス、スキルボーナス、特殊能力は必ず変化が起こる以上、何か持っているはずだ。

俺は初めた時からのステータス、スキル共に変わっていないので、絶対に特殊能力を持っている。

しかし、特殊能力はステータス欄に表示されないので、自力で見つけるしかない。

”海人”は海に関する特殊能力であるはず。

俺は”海人”の名前から辺りをつけて、もう一度海に潜って変化が起こっていないか確認するために、海へ向かう。

海に浸かり、メニュー画面を開く。そして、ステータス欄、スキル欄、アイテム欄、武器欄、全てをチェックする。まあ、オプション欄は関係ないからスルーする。

しかし、変化は起こっていない。見逃しが無いか確認するために、もう一度メニュー欄を確認すると、右上のキャラ名の下の数値が変動。

経験値が上昇している。

”海人”の特殊能力は、経験値上昇らしい。

これならば、海の生物のレベルが高いのも納得できる。

普通のプレーヤーなら、陸でレベルを上げるだろう。

しかし、”海人”でレベルを上げようとするなら海を選択する人が多いはずだ。俺みたいに――。

大型モンスターを倒して手に入れた経験値と、今の経験値の上がり方から見て、戦闘を行った方が効率はやさそうだが、俺にはもうひとつの目的がある。

沈没船に眠るお宝。
トレジャーハント
財宝発掘

レベル上げを行ってから、発掘しようと考えていたが、順番は逆になるが、沈没船を探しながらレベル上げをすることに決めた。

そして、俺は沖に向かって”泳ぎ”始めた。

交易の街”ホルン”

チュートリアルを開始を待っている大勢のプレイヤーたち。これらのゲームの進め方を討論して、あらゆる所でざわめきが起きている。そこに上空から機械的な声が響く。

「当選者、全プレイヤーの登録が完了。これよりチュートリアルを開始します。まずは、メニュー画面のオプション欄を見てください。

チュートリアルを待っていたプレイヤーたちは声に従って画面を開きながらも、疑問に思った。

何故今さらメニュー画面？

よりにもよってオプション欄？

さまざまなプレイヤーたちに疑問にが生じて、ざわめきが起こる。

しかし、それらのざわめきは続けられた言葉によって打ち消された。

「このゲームにはログアウトは存在しません。」

2話 帰還不能（後書き）

ここから、冒険が始まります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8201y/>

ADVENTURE ONLINE

2011年11月29日15時46分発行